

# 琉球大学学術リポジトリ

Zone

Ⅱにおける屈筋腱縫合のロッキング法および縫合糸材料変更による効果

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2021-05-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Yoneda, Susumu, 米田, 晋 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/48485">http://hdl.handle.net/20.500.12000/48485</a>

(別紙様式第3号)

## 論 文 要 旨

論 文 題 目

The effect of modified locking methods and suture materials on Zone II flexor tendon repair

-An *ex vivo* study

(Zone IIにおける屈筋腱縫合のロッキング法および  
縫合糸材料変更による効果)

氏 名 米 田 晋





HHL) 、 または高い引き抜き強度が報告されて
いる surface locking Kessler (以下 SLK) を用いた。
要因 ② : 縫合糸は 3-0 Supramid と 4-0 Fiberwire で比較し
た。
統計学的検討は 2-way ANOVA ならびに事前比較
として単純主作用で行い、 $p < 0.05$ を有意とした。
【結果】
2-way ANOVA による解析では、 ① : SLK は MK 、
HHL と比べて縫合強度である最大破断強度、
2mm 離開強度および降伏強度が有意に高く、
② : Fiberwire は Supramid と比べて最大破断強度、 2mm
離開強度、降伏強度、そして弾性率が有意に
高かった。
単純主作用による解析では、 ① : 縫合法は
Supramid 、 Fiberwire いずれの縫合糸でも SLK を用いた場
合に縫合強度が最も高い傾向で、特に最大破
断強度は有意に高かった。 ② : 縫合糸は HHL
と SLK の腱把持方法では Fiberwire を用いた場合に縫
合強度が有意に高かった。
破断形式は、 Supramid を用いた場合は SLK およ

